

PISA2018 「読解力」調査結果を受けて

令和元年12月4日

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会

横浜国立大学

高木まさき

1. 前提として...

- ◆ PISA調査は「義務教育修了段階の知識や技能」を把握するものであり、同調査の「読解力」も小・中学校における学習が大きく影響すると考えられる。
- ◆ 一方、高校1年生を対象として行われる関係上、国語科における学習環境やICT活用などのデータは高等学校の状況を示すものと考えられ、上記「読解力」との単純な比較はできない。
- ◆ このため本発表では、主に小中高等学校を通じて共通すると思われる指導上の課題等を取り上げ述べる。

2. 「読解力」に関する調査結果を踏まえた 成果と課題

1. 読書への関わりから

- 日本の生徒は読書を好む割合が他国に比べ高く、読む本の種類による得点のあり方も他国と似た傾向にあることなどから、PISAが調査する「読解力」を身に付けるだけの基盤は備えていると考えられる。
- 読書に対する生徒の興味・関心が、ノンフィクションや新聞などを含む様々なテキストに向いていないことが、「読解力」得点の低下に関連していることが推測される。

2. 「読解力」に関する調査結果を踏まえた 成果と課題

2. 国語の学習環境から

- 日本の国語の学習環境は、OECDの平均値に近く、比較的安定したものになっていると推測される。
- 日本の国語の授業は、指導方略の在り方が、上位の国等に比べ、大きな課題になっている可能性が推測される。
- 日本の国語の授業は、生徒へのフィードバックの在り方に大きな課題があることが推測される。

2. 「読解力」に関する調査結果を踏まえた 成果と課題

3. メディアの活用から

- ネットで何かを調べるための検索経験の多寡などが、「読解力」の得点に影響していることが推測される。
- 「わからない言葉」「難しすぎる文章」など語彙や文章の難度などに関して、日本の生徒は、より困難さを感じており、これらの面が「読解力」の得点に影響していたことが推測される。また、このことは、例えば、RSTなど諸調査から見える語彙等の課題とも関連している可能性も考えられる。

2. 「読解力」に関する調査結果を踏まえた 成果と課題

4. PISA2018 ICT活用調査から

- 日本の生徒は学校の授業（国語、数学、理科）におけるデジタル機器の利用時間が短く、また、学校外での学習でデジタル機器を利用する頻度も低い。このこともCBT調査となったPISAの得点に影響したことが考えられる。

3. 改善のポイント

今回の調査結果を踏まえた主な課題を改善するためのポイントとして、次の5点が考えられる。

- ①国語の授業等を通して、生徒の興味・関心がノンフィクションや新聞などを含む様々なテキストに向かうように、読書活動・読書指導の在り方を改善すること。
- ②国語の授業において、指導方略の在り方、生徒へのフィードバックの在り方を改善すること。

3. 改善のポイント

- ③国語の授業において、様々な文章を批判的に読み、適切な根拠を用いて自分の考えを表現する指導を充実すること。
- ④生徒の言語生活を踏まえ、国語科においても、適切にコンピュータを活用すること。
- ⑤特定のテーマ等について、インターネットで検索する経験を増やすこと。

4. 改善に向けた全体的な方向性

- 読解力を含め、言語生活全般の質を高める観点から、様々なテキストに触れ、言葉に対して自覚的になるような学習指導が必要。
- 新学習指導要領国語において、小中高等学校を通じて求められている「語彙指導」、原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係を考える「情報の扱い方」、「読書指導」の改善・充実を一層進める。また、これらを適切に関連付けた指導の在り方も重要。

4. 改善に向けた全体的な方向性

- 「カリキュラム・マネジメント」の観点から、国語科だけでなく、教科を超えた意図的な取組が必要。
- 現在、取り組まれている言語活動の更なる充実。
- 目標や指導内容、学習過程の明確化とともに、学習者に学習の見通しをもたせ、適切に振り返りをさせること等を通じて、学びへの自覚を高め、自らの考えを形成させることが重要。

4. 改善に向けた全体的な方向性

- 学習者の達成感を高め、学習意欲を向上させるよう学習指導の在り方を改善することが重要。そのためには、能動的に学習に向かい、他者との協働の中から、自らの学びを自覚し、言葉の役割や働きへの理解を深めるような「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要。
- 学習者を取り巻く言語環境の変化を踏まえ、語彙の獲得や読書指導、学習過程・成果の共有、考えの形成などの観点から適切かつ積極的なICT活用を考えることが必要。アクセシビリティ(accessibility)の観点からの効果も期待。